

第11次静岡県職業能力開発計画の進捗状況

資料 4

1 社会の変化に対応できる能力の習得

【高度で幅広い専門的な知識・技能を持つ実践技術者を育成】

管理指標	11次目標	R4実績	R3実績
工科短期大学の定員充足率	100%	90.8%	92.3%
工科短期大学の志願者数	195人	155人	162人

	2022	2023	2024	2025	2026
工科短期大学の定員充足率	体験入校・各種イベントにおけるP R・高校訪問・H Pの充実				
	充足率 100%	100%	100%	100%	100%
工科短期大学の志願者数	体験入校・各種イベントにおけるP R・高校訪問・H Pの充実				
	志願者数 170人	180人	190人	195人	195人

施策の方向性

- グローバル化や科学技術の進展による大きな変化に対応できる人材を育成するため、清水技術専門校と沼津技術専門校の教育内容を高度化し、令和3年4月に静岡県立工科短期大学校（静岡キャンパス・沼津キャンパス）を開校した。
- 生産現場のリーダーとなる人材を育成するため、時代に合わせて高度化した教育・訓練を実施している。

主な取組

- 工科短期大学校学生募集広報
 - ・高校訪問、進路担当者説明会、オープンキャンパスや高校の個別見学会、進路ガイダンスへの参加など応募者増加に向けた広報を実施している。

主な取組の評価・課題

- 評価
 - ・令和4年度工科短期大学校入学生は118人と定員充足率90.8%となった。（令和3年度は120人、定員充足率92.3%）
 - ・短期大学校化により、入学者数は増加しており、沼津・清水技術専門校（令和2年度生、66人入学、定員充足率55.0%）に比べて令和4年度生は52人増加し、定員充足率も1.65倍となった。
 - ・工科短期大学校の志願者数は、令和4年度生に対して155人（令和3年度生に対して162人）と、各年度の目標値には達していないが、沼津・清水技術専門校（令和2年度生、志願者数89人）に比べて66人増加（1.74倍）した。
- 課題
 - ・少子化が進展する中での志願者・入学者の確保
 学校基本調査では、静岡県内高校全日制3年生在学者数は、令和4年度29,227人、令和3年度29,834人、令和2年度30,820人、令和元年度31,459人と3年間で2,232人減少している。また、令和4年度2年生は28,511人と来年度は716人減少する見込み。
 - ・進路選択時期が早期化（オープンキャンパス参加者のうち高校1・2年生の参加者の割合は、令和3年度23%、令和4年度30%）しており、志願者数増加を目指すのに高校1・2年生に向けた広報強化が必要である。

3 技術・技能を尊重する社会の実現

【技能レベル・社会的評価の向上】

管理指標	11次目標	R4実績	R3実績
若年者ものづくり競技大会入賞者数	6人	4人	4人

	2022	2023	2024	2025	2026
若年者ものづくり競技大会入賞者数	工科短期大学校における競技大会レベルの技能習得講座の実施				
	6人	6人	6人	6人	6人

施策の方向性

- 技能者を育成するため、特に若年技能者のレベルアップを図るとともに、技能競技大会等への選手派遣により、技能の素晴らしさを広くPRし、技能士の社会的評価を向上させていく。

主な取組

- 県ものづくり競技大会の開催
 - ・若年者ものづくり競技大会の県予選となる県ものづくり競技大会を県内の工業高等学校及び職業能力開発施設の合同で開催し、若年技能者の技能向上を図っている。
- 県立職業能力開発施設学生の技能向上
 - ・県立職業能力開発施設の学生が課外で行う技能向上訓練の経費（講師料・材料代等）を助成している。
- 若年者ものづくり競技大会選手育成経費の助成
 - ・若年者ものづくり競技大会出場選手が上位入賞を目指して行う訓練の経費（講師料、材料代等）を助成している。
- 工科短期大学校における工業高校等との連携コース
 - ・工業高校等で基礎的な知識・技能を習得又は関連資格を取得した者を対象に、技能検定2級等の高度な資格取得や全国大会に参加できる技能の習得を目指したコースを実施している。

主な取組の評価・課題

- 評価
 - ・令和4年度は17人が8職種に参加し4人が入賞した。（令和3年度は12人が9職種に参加し4人が入賞）
 - ※グラフィックデザイン職種で銀賞、ITネットワークシステム管理で銅賞受賞
 - ・過去5年間、毎年12人～20人を派遣し、入賞者の最大人数は4人と目標値に達していない。（入賞者が最も多いのは平成29年度で、18人が9職種に参加し6人が入賞）
- 課題
 - ・若年者ものづくり競技大会は15職種あり、入賞者数増加のためには、選手育成強化とともに出場実績のない職種の県ものづくり競技大会の実施や選手派遣に向けて大会の周知を図っていく必要がある。
 - ・令和5年度若年者ものづくり競技大会は静岡県を会場（ツインメッセ静岡、工科短期大学校静岡キャンパス）に実施予定であることから、大会の広報を一層図り、参加者や参加職種の増加に繋げる取組みをしていく。